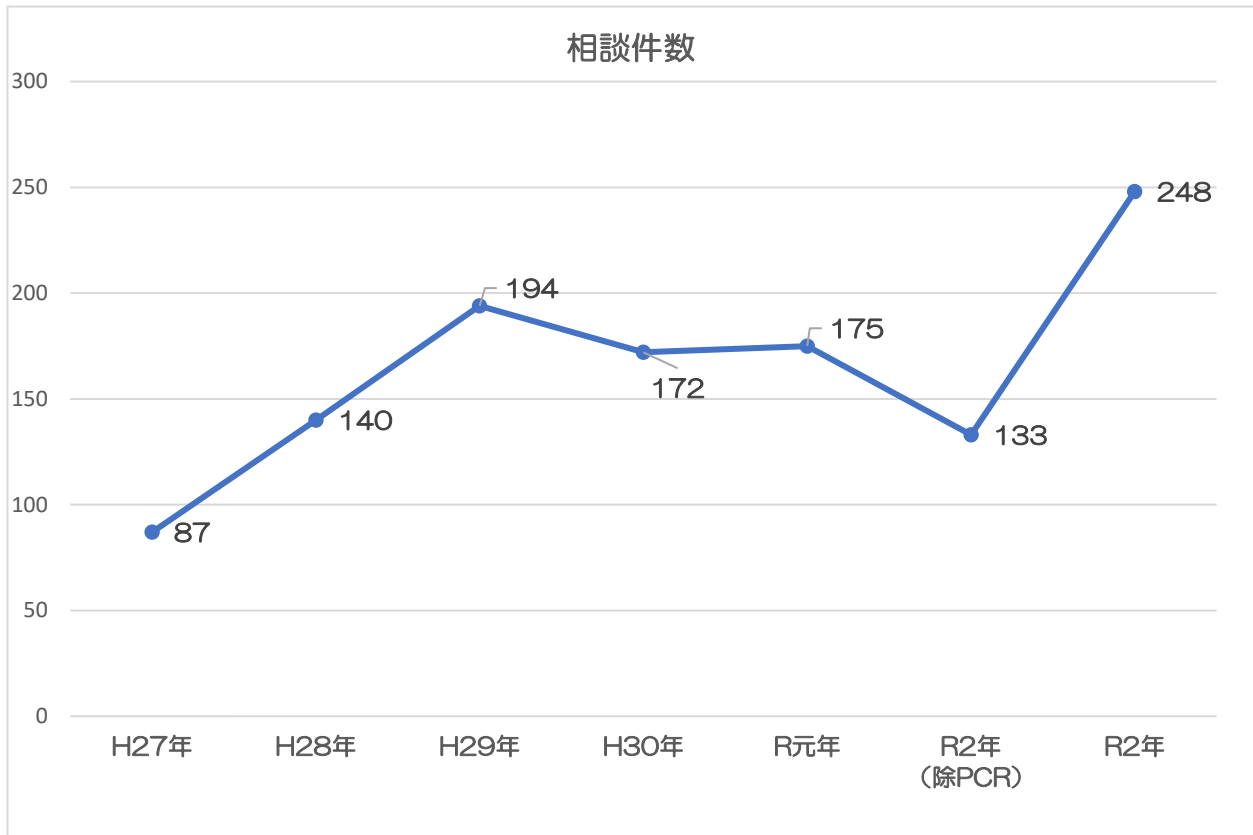


R2年(4月~1月)実績

武蔵野市医師会在宅医療介護連携支援室
石井

相談件数 (4月~1月比較) (件)

	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年 (除PCR)	R2年
相談件数	87	140	194	172	175	133	248



- 医療と介護の連携に関する相談は平均して入っている。
- 今年度はコロナの流行に伴い、コロナ関係の相談が計上され相談増となっている。
- コロナ関連の相談は115件。

相談内容

(%)

		H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2 除10月	R2 含む10月
在宅	在宅療養調整	51.8	47.9	46.9	34.9	39.4	47.4	25.4
	入院入所調整	9.2	12.1	4.1	8.1	12.0	11.3	6.1
退院	退院在宅調整	1.1	2.1	9.3	8.1	5.7	10.5	5.6
	転院調整	1.1	11.4	8.8	6.4	12.6	8.3	4.4
	MCS		7.9	14.9	14.0	8.0	10.5	5.6
	その他	36.8	18.6	16.0	28.5	22.3	12.0	6.5
	コロナ関係							46.4

- ・今年度相談内容は、約半数が、コロナ関係、PCRについてとなっている。
- ・コロナ関係を除いた相談内容としては在宅調整に関するものが例年通りに半数を占めている。
- ・コロナを除く相談については、在宅基盤の患者さんの療養についてが多くを占める。
- ・入院入所制限、面会の制限等により、在宅療養をせざるを得ない状況も垣間見える。
- ・在宅療養相談の特徴としては、患者本人、家族に精神疾患が疑われるようなケースが増えている。
- ・現在、精神科の往診が、医療保険の算定上できにくいいため、専門性のある診断を受けることが困難。
- ・入院相談については、熱発の患者の受け入れ先がPCR検査後でないと決まらない。

相談者

	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年
医療機関	17.2	30.7	21.7	28.0	25.7	36.7
地域包括・在支・行政	23.0	22.9	13.4	18.0	22.3	13.3
居宅（ケアマネ）	42.5	34.3	43.3	33.1	33.7	25.4
訪問看護	5.8	2.1	4.1	1.7	1.7	2.4
訪問介護系		0.7	1.0	0.6	0.0	0.4
通所系		2.9	0.5	2.9	2.3	0.4
施設系		1.4	2.6	1.2	1.7	1.2
その他	11.5	5.0	13.4	14.5	12.6	20.2

- ・PCR検査、熱発患者の処遇についての医療機関からの相談が多く占めた。
詳細、別項目、コロナ関係相談参照。
- ・前年度同様、ケアマネからの相談は多数を占めるが、連携の取れているケアマネからの相談が多い。さらなる今後の「連携支援室」の周知が必要と思われる。
- ・その他に計上されているが、医師会のHPをみて等の市民から直接の相談も増加傾向。
現在、受けた相談に関しては、「傾聴」「該当機関へつなぐ」などの対応をしている。
今後、市民からの相談を受けていくかが課題。

出席会議

	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年
	55	59	48	63	58	30

- ・感染症対策として会議の中止や延期が相次ぎ、総数としては減。
- ・今年度後半に入ってから、オンライン会議も導入されてきている。

訪問件数

	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年
	159	156	89	121	102	127

- ・感染症対策として、訪問等を控えていた。127件のうち70件はPCR検査センター業務。

コロナ関係相談

(件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
0	25	27	17	20	4	3	5	6	8	115

コロナ関係相談者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
医療機関	0	16	18	12	13	2	1	2	1	2	67
地域包括 (在支、行政)	0	4	2	0	2	0	0	0	0	0	8
居宅(ケアマネ)	0	0	1	0	1	1	0	0	1	4	8
訪問看護	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2
訪問介護系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
通所系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
施設系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市民	0	5	6	2	2	1	2	3	2	1	24
その他	0	0	0	2	2	0	0	0	1	1	6
合計	0	25	27	17	20	4	3	5	6	8	115

- 予期せぬ初めての感染症であり、医療相談として医療機関、市民からの相談が相次いだ。
- 5月から市と医師会、医療機関の協力にてPCR検査センターを設置。
医療機関からは検査の仕組みや書類も含めた流れについても対応。
PCR検査センターは、検査機関が充実したことによりR3年2月にて終了。
- 一般市民、一般の会社からの相談にも対応。
- 医療機関からの主な相談内容。
PCR検査や熱発患者の受診について。
検査に関する相談。（利用交通機関、手順、費用、在宅療養患者の検査）
陰性証明としての検査について。
- 市民からの主な相談内容。
陰性証明としての検査について。
熱が出ている。
- 介護事業所からの相談内容。
熱発した利用者との接し方。
デイの職員が熱発。
ショートステイに陰性証明を求められている。
通院困難高齢者がPCR検査をどのように受けることができるか。
- 一般の会社からの相談内容。
会社の近くでコロナ陽性がでている。社員に検査をしたい。
社員が陽性に。保健所で濃厚接触者とならなかった社員にも検査を受けさせたい。

考察

R2年度は、予期せぬ感染症流行で始まり冬期への再拡大リスクで翻弄された。
武蔵野市医師会では5月に市役所健康課と「PCR検査センター」を設置。
医師会会員、介護事業者、市民の不安に迅速に対応できる結果となった。
感染症対策による活動の減少が高齢者の心身の低下を招く心配もあり
今後、コロナの感染状況を見つつ、今後の支援室の体制強化を進めていく。